

高品質で美味しいアルプス米の生産は、健全な土づくりから！ ～9月15日～11月15日は「秋の土づくり運動」期間です～

健全な土づくりは、天候に左右されない安定した強い稲をつくり、高品質で美味しい米の生産につながります。収穫を終えた土に、有機物の施用やケイ酸分の補給を行い、次年度の作付けに備えましょう。

1. 有機物の施用で地力を回復

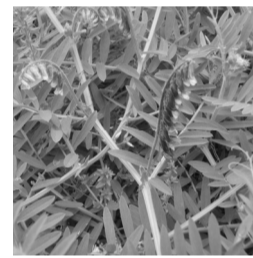
稲わらのすき込みに加え、堆肥や緑肥作物等の有機物を施用することで、土壌中の腐植が増加し、肥料分の持ちが良くなるとともに、透水性・保水性・通気性が改善し根張りが良くなります。

【堆肥等施用の目安(10a 当たり施用量) 秋施用】

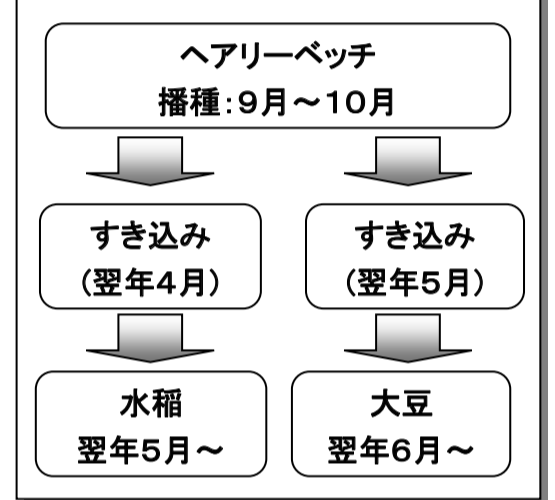
牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	発酵鶏ふん	糶がら堆肥
1～2t	1～2t	100～150kg	1～2t

【緑肥作物の栽培(冬作物)】

作物名	播種時期	播種量
ヘアリーベッチ	水稻収穫後～10月中旬	3～4kg/10a
レンゲ	水稻収穫後～10月中旬	3～4kg/10a



【ヘアリーベッチの栽培体系】

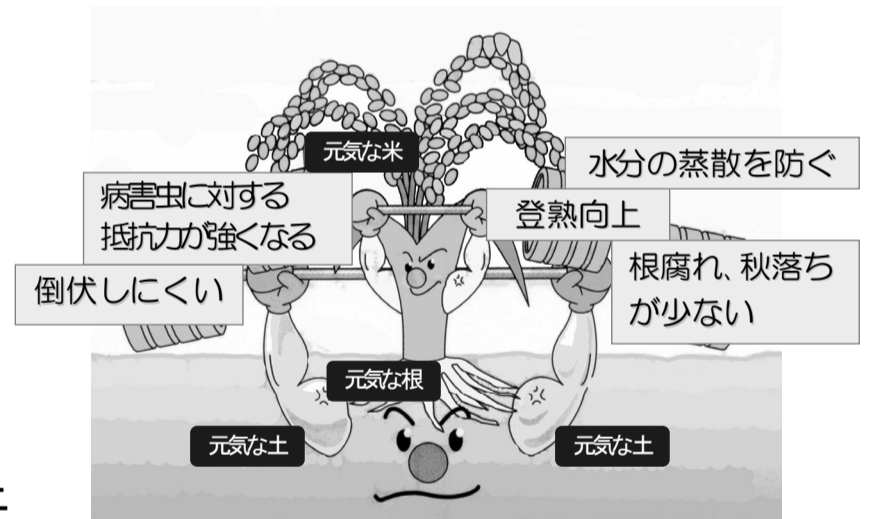


※ヘアリーベッチ、レンゲともマメ科の緑肥作物なので、肥料は不要です。
※初期の湿害に弱いので、額縁排水溝を設置するなど、排水対策を行ってから播種しましょう。
※播種時期が遅れるほど生育量の確保が難しくなるので、できるだけ早い時期に播種しましょう。

2. 土づくり資材の施用でケイ酸を補給

JAアルプス管内の土壌診断結果によると、土壌pHが低く、ケイ酸分が不足している圃場が多く、鉄分やカリが不足している圃場も目立ちます。土づくり資材を施用し、高品質な米の安定生産につなげましょう。

- 1) 稲はケイ酸を多く必要とします。途中で施用を中断すると、ケイ酸は急速に減少しますので、継続的に施用しましょう。
- 2) アルカリ分は土壌の酸性を矯正するため、養分吸収の向上やカドミウムの吸収抑制に有効です。



【土づくり資材の施用効果】

【土づくり資材の特徴と施用量の目安】

資材名	特徴	ケイ酸分(%)	アルカリ分(%)	10a当たり施用量
粒状ケイカル	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる 倒伏やいもち病に対して抵抗力が増す	30.0	44.0	200kg
元 気	ケイ酸、苦土の他、有機質15%入り	24.0	32.0	100kg
シリカロマン	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給可能	25.0	45.0	100kg
シンキョーライトP	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力の改善	(66.1)	—	100kg

3. 秋耕して稲わらをすき込む

秋耕しは地温の高い10月中に行い、稲わらや糶殻を腐熟させましょう。なお、焼却すると、窒素やケイ酸は失われてしまうので、焼かずに全量すき込みましょう。

秋耕し後は、腐熟促進のため排水溝を設置して水尻にしっかり連結し、圃場の排水に努めましょう。

～農作業機械で道路を汚したら、必ず掃除しましょう～

GAPでより良い農業経営を！

◎GAP(ギャップ)とは

「安全な農産物の生産」、「環境に配慮した農業生産」、「農業者の安全確保」の視点から、農作業事故や農薬残留違反といった農業生産活動における事故や事件の発生の未然防止など「良い農業」を行うための持続的な改善活動です。

それがGAP(Good Agricultural Practice)

良い

農業の

実践

「適正な農業のやり方で生産しよう！」
という取り組みの事です！



「GAP」は日常的な取り組みです。その当たり前前の方がしっかりできていますか？

日常的な取り組みのことができていないと、事件や事故や環境の問題の発生につながります。「問題が起こったらどうするか」ではなく、「問題を起ささない仕組み」をつくり、その仕組みを守って生産・出荷していることを示すことが重要です！

富山県適正農業規範(とやまGAP規範)は、GAPを実践するにあたっての「道しるべ」となるよう、平成23年12月に策定されました。この規範を参考に、関係者全員でGAPに必要な農場ルールを考え改善につなげましょう。

◎GAPの取組事例

安全な農産物の生産



例1 農薬の適正な保管

環境に配慮した農業生産



例2 緑肥の利用による化学肥料の削減

農業者の安全確保



例3 危険作業時のヘルメット着用

◎GAPの取組手順

①自己点検 (気づき)

JAアルプスの栽培記録簿の裏面の「GAPチェックシート」を活用して、法律違反や事故等につながる問題点がないか確認しましょう。

②改善

自己点検で気づいた問題点について、改善に必要な取組や農場ルールを考え、関係者で情報を共有しましょう。

③実践

問題点を改善するための農場ルール等に基づき、適正な農業生産活動を実践しましょう。

以上の①～③を繰り返す継続的な改善活動がGAPの取組です。

①自己点検

チェックシートを活用して問題点がないか点検

継続的取組

②改善

規範等を参考に問題点を改善

③実践

改善後の農場のルールに基づき農作業を実践

【お知らせ】 JAアルプスでは、11月14日(水)に農業用廃プラスチック類・廃棄農薬の回収を行います。回収場所は、立山、上市、滑川営農経済センター(配送)です。詳しくは、『広報アルプス 10月号』でご確認下さい。